

Q. まわりにいる（地元の）ひきこもりの子どもたちにどう声を掛けたらいいのかわからずにあります。今はあいさつ程度しかできていないのですが、これからどう関わってあげばいいのかを教えてください。

A. 「まわりにいる（地元の）ひきこもりの子どもたち」を、小中高等学校のいわゆる不登校の児童生徒と想定して回答させていただきます。18歳以上でいわゆる「ひきこもり」の状態の方に対しても、基本的な接し方は同じです。

不登校は子どものせいでも親のせいでもありません。学校という環境に合わないだけです。子どもはそのことを悪いことのように捉え、自分はダメな人間だと自己肯定感を下げてしまいます。不登校の子どもたちに接する際、もっとも大切なことは「自己肯定感を下げないこと。自己肯定感を上げてあげること。」です。子どもの自己肯定感を下げない関わり方、自己肯定感を高める関わり方が大切であるということです。

大人は不登校の子どもを外の世界に繋げる大切な役割を担う可能性もあります。会話を通して子どもが外の世界に興味関心を持つような関わり方も効果的です。

では、具体的にどうしたらよいか、例をあげてお伝えします。

1 特別なことを言おうとしないことが大切です。

- ・「この子は不登校だ」という意識で接するのではなく、地域の子どもの一人というフラットな感覚で接しましょう。地域の普通の大人に接するのと同じ気持ちで接したらOKです。
- ・見守るだけでも十分です。目が合ったらにっこり笑ってあげてください。「私はあなたを受け入れるよ、そこにいても大丈夫だよ」という気持ちが伝わります。

2 普通に挨拶するだけで十分です。

- ・おはよう、こんにちは、今日は寒いね・・・そんな普通の挨拶でOKです。出会ったらいつでも挨拶をしてください。「昨日はしたけど今日はしない」という変則的な対応をすると子どもは不安に感じ身構えてしまうことがあります。
- ・ただし挨拶をしても返してくれないことが多いと思います。それでもいいから継続して挨拶してあげてください。「大きな声で挨拶しなさい」などといった指導はNGです。寛容な気持ちで接してください。
- ・学校のことには触れてはいけません。「最近どうしてる？」といった聞き出す質問も避けてください。

※出会った時に避けたい言葉

×学校は？ 今日学校休みなの？

- ×学校行かなくてもいいの？ 勉強はどうしてる？
- ×これからどうするの？ 将来どうするの？
- ×がんばってね しっかりしろよ 元気出せよ
- ×お母さん、悲しんでるよ
- ×世の中そんなに甘くないよ 強くならなきゃ

3 お互いよく知っている関係であれば、次のようなアプローチも OK です。ただし答えが返ってこないこともあるので、その場合は追及しないことです。

- ・本人を肯定する言葉
 - 大きくなったねえ 元気そうだね お、新しい靴買ったんだ、いいねえ
- ・頼ってみる そしてその後に感謝を伝える
 - わしはラインの使い方がわからんでな、ちょっと教えてくれんかね
 - ちょっとだけ荷物を運ぶの手伝ってくれんかね
 - うちのワンコの散歩行ってくれんかね (犬好きの子なら)
 - や～、助かったわ、ありがとうね、また頼むわ
- ・共通の話題を話す
 - おばあちゃん、最近足の具合はどうだい？
 - お父さん、忙しそうだね、毎日遅いの？
 - 新しいコンビニができたけど行った？今セール中らしいよ

4 親しい間柄で世間話ができる関係であれば。

- ・本人のがんばりを認める言葉
 - よくがんばってるね
 - 立派だよ
 - きみは絶対に大丈夫だよ
- ・自分の気持ちを伝える言葉
 - 話ができおじさんは楽しかったわ、また話したいわ
 - きみとお話しできて嬉しかったよ
 - お話しできて、おじさん元気をもらったわ
- ・相手が話してくれたことに対してオウム返しで承認してあげる
 - そうだったんだね
 - それは大変だったね
 - 話してくれてありがとうね

5 さらに関係性が深まり、子どもが話す相手に興味や関心をもっている場合。

・誘ってみる

畑仕事が好きなんだね、一緒にやってみるか？

おじさん今度釣りに行くけど、よかったら一緒に行かない？

バンドのメンバー探してるけど、ギターやってみないか？

・提案する

この前行った美術館の漫画展、最高だったよ。行って見たらいいよ。

この本は最高だよ。ぜったいお薦め！

いつでも話聞くから何でも言ってね

〇〇さんっていう面白い人がいるんだ、きっと君と話が合うよ、紹介するよ